

## 【事業概要】

2025年には団塊の世代が75歳以上となり、医療と介護が必要な高齢者の増加が見込まれている。高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、「在宅医療」と「在宅介護」を多職種連携により一体的に提供できる地域基盤づくりを推進する。

## 【目的】

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域において、切れ目なく医療と介護を一体的に提供することができる体制を構築する。また、住民や地域の医療・介護関係者と地域のめざすべき姿を共有し、医療機関と介護事業所等の関係者との協働・連携を推進する。

## 地域支援事業（包括的支援事業（社会保障充実分））

|  | 令和6年度実績（見込）   | 令和7年度計画（案）   |
|--|---|--|
| 地域の医療・介護資源の把握及び地域資源情報の有効活用<br>【くれ福祉のお役立ちサイト（しっとてクレ）】 | <p><b>【くれ福祉のお役立ちサイト（しっとてクレ）の有効活用】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・掲載情報の登録・更新</li> <li>・地域診断ワーキング 2回実施<br/>実施日：第1回 令和6年8月8日（木）、9日（金）<br/>第2回 令和6年11月1日（金）</li> <li>参加者：包括的支援推進員（福祉のキューピット）、地域づくり支援事業責任者（にじいろ）、まるごとネット担当者、保健センター保健師、高齢者相談室職員等</li> </ul>  | <p><b>【くれ福祉のお役立ちサイト（しっとてクレ）の有効活用】</b> 繼続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・閲覧数の増加</li> <li>・掲載情報の登録・更新</li> <li>・生活支援体制整備の促進</li> <li>・関係機関との連携ツールとしての有効活用 《資料2》</li> </ul>  |
| 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討                               | <p><b>【在宅医療・介護連携推進検討委員会】</b><br/>年3回 8月・3月実施（対面会議）、9月（書面会議）<br/><b>【調査】</b><br/>医療・介護関係者のACP支援に関するアンケート調査<br/>(結果)<br/>回答数：612名（呉市内の医療機関及び介護保険サービス事業所等902ヶ所に配布）<br/>(課題)<br/>医療・介護関係者へのACPの啓発が十分でなく職種によって差があった。よって職種の役割に応じた啓発をする必要がある。</p>  | <p><b>【在宅医療・介護連携推進検討委員会】</b><br/>年2回 実施予定<br/><b>【関係機関との連携・連動】</b><br/>包括的支援推進員と連携・連動し、日常生活圏域における在宅医療・介護連携の課題抽出のために医療機関及び居宅介護支援事業所にヒアリングや調査等を行い、地域の実情に応じた対応策の検討を行う。<br/>(ヒアリング・調査等のテーマ)<br/>日常の療養支援<br/>入退院支援<br/>急変時の対応<br/>看取り</p>   |
| 在宅医療・介護連携に関する相談支援                                    | <p><b>【相談支援】</b><br/>在宅医療・介護連携推進コーディネーターによる相談実績12件（令和7年2月1日現在）《資料3》<br/><b>【相談窓口の認知度向上及び利用促進の対応策】</b><br/>(周知活動)<br/>・在宅医療・介護連携推進コーディネーターの役割について、研修会等で改めて周知を行った。<br/>・相談事例集積及び呉市ホームページへの掲載等によるフィードバックを行った。</p>  | <p><b>【相談支援の継続】</b><br/>在宅医療・介護連携推進コーディネーターによる相談支援<br/><b>【相談窓口の認知度向上及び利用促進の対応策】</b><br/>・周知活動の継続<br/>・相談支援業務の発展<br/>包括的支援推進員と連携・連動し、日常生活圏域の実情に応じてきめ細やかな相談支援を行う。</p>   |
| 地域住民への普及啓発<br>・ACP支援<br>・在宅医療の推進                     | <p><b>【私の心づもり・人生の彩ノート】</b><br/>配布数：6,849冊<br/>講話等の開催：34回<br/>参加者数：791人（令和7年2月1日現在）<br/><b>※人生の彩ノートの改定</b><br/>【きらきら終活フェア】<br/>実施日：令和6年11月9日（土）<br/>来場者：200人<br/>人生の彩箱（いろどりばこ）を作成し、希望する来場者に配布した。《資料4》<br/><b>【市民公開講座】</b>《資料5》<br/>最期まで自分らしく生きるために～人生会議は生き方会議～<br/>実施日：令和7年2月1日（土）<br/>対象：一般市民<br/>来場者：155名</p>  | <p><b>【私の心づもり・人生の彩ノート】</b><br/>継続<br/><b>【市民公開講座】</b><br/>対象：一般市民<br/>普及啓発のテーマ：ACP<br/>在宅医療と介護サービス<br/>かかりつけ医等をもつ<br/>など</p>   |
| 医療・介護関係者の情報共有の支援、研修の開催支援                             | <p><b>【医療・介護関係者の情報共有の支援】</b><br/>・中央地域医療・介護連携ネットワークチーム会議<br/>年2回 8月、3月実施<br/>・宮原・警固屋地域医療・介護連携ネットワークチーム発足《資料6》<br/><b>【医療・介護関係者の研修等】</b>《資料7, 8-1, 8-2》<br/>第4回在宅療養を支えるスタッフのための多職種連携研修会『多職種でつむぐACP～人生会議が「わかる！」から「できる！」へ～』<br/>(基礎編)ハイブリット型研修<br/>実施日：令和6年10月4日（金）<br/>参加者：会場：35名 WEB：87名 計122名<br/>(実践編) 参集型研修<br/>実施日：<br/>第1回 令和6年11月7日（木）参加者：44名<br/>第2回 令和6年11月15日（金）参加者：30名</p> | <p><b>【医療・介護関係者の情報共有の支援】</b><br/>・中央地域医療・介護連携ネットワークチーム会議<br/>年2回 実施予定<br/>・宮原・警固屋地域医療・介護連携ネットワークチーム 年2回 実施予定<br/><b>【医療・介護関係者の研修等】</b><br/>・地域包括ケア病棟や地域医療連携室を対象に、多職種連携を考える研修会を開催し、円滑な入退院支援と日常の療養支援について検討する。<br/>・職種の役割に応じたACP研修を行い、支援者として意思決定支援について理解するとともに、意思決定支援のファシリテーションスキルの習得・向上を目指す。</p> |